

# 環境報告書の評価

## 第三者による検証

### 環境報告ガイドライン2012年版との比較検証結果書

環境報告の記載事項	記載頁	記載がない場合の理由
<b>環境報告の基本的事項</b>		
<b>1. 報告にあたっての基本的要件</b>		
(1) 対象組織の範囲・対象期間	2, 3	
(2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異	3, 20～24	
(3) 報告方針	2, 3	
(4) 公表媒体の方針等	3	
<b>2. 経営責任者の緒言</b>		
	1	
<b>3. 環境報告の概要</b>		
(1) 環境配慮経営等の概要	15～26	
(2) KPIの時系列一覧	44～49	
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	44, 50	
<b>4. マテリアルバランス</b>		
	30, 44	
<b>環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況を表す情報・指標</b>		
<b>1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等</b>		
(1) 環境配慮の方針	27, 28	
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	29	
<b>2. 組織体制及びガバナンスの状況</b>		
(1) 環境配慮経営の組織体制等	19, 28, 31, 32	
(2) 環境リスクマネジメント体制	33	
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	34～36	
<b>3. ステークホルダーへの対応の状況</b>		
(1) ステークホルダーへの対応	58～61, 12～14	
(2) 環境に関する社会貢献活動等	42, 43, 51～57, 12～14	
<b>4. バリューチェーンにおける環境配慮の取組状況</b>		
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	35, 40, 41	
(2) グリーン購入・調達	40, 41	
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	—	非製造業
(4) 環境関連の新技术・研究開発	51～57	
(5) 環境に配慮した輸送	—	非製造業
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発／投資等	—	非製造業
(7) 環境に配慮した廃棄物処理／リサイクル	37, 38	
<b>事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組みに関する状況を表す情報・指標</b>		
<b>1. 資源エネルギーの投入状況</b>		
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	30, 42, 44～46, 50	
(2) 総物質投入量及びその低減対策	38, 41, 47～50	
(3) 水資源投入量及びその低減対策	38, 44, 45	
<b>2. 資源等の循環的利用の状況(事業エリア内)</b>		
	42, 43	
<b>3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況</b>		
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	—	非製造業
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	30, 44～50	
(3) 総排水量及びその低減対策	44, 45, 50	
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	44, 46, 49, 50	
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	44, 50	
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	44, 46, 47, 49, 50	
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	36～38, 50	
<b>4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況</b>		
	39, 51, 52, 56	
<b>1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況</b>		
(1) 事業者における経済的側面の状況	25	
(2) 社会における経済的側面の状況	—	非製造業
<b>2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況</b>		
	51～57	
<b>1. 後発事象等</b>		
(1) 後発事象	無	
(2) 臨時的事象	無	
<b>2. 環境情報の第三者審査等</b>		
	62～63	

独立行政法人 海洋研究開発機構が作成した「環境報告書2013」の記載開示事項について「環境報告ガイドライン2012年版」と比較し、その「網羅性」を確認しました。  
 確認の結果、「環境報告書2013」は上記表に示すように「環境報告ガイドライン2012年版」に準拠し、網羅的に適切に作成、開示されていることを確認しました。  
 今後は、個々の内容の記載内容の充実を図るとともに環境パフォーマンス情報に関する「信憑性」の表明を期待いたします。

2013年9月

津上 昌平

・環境マネジメントシステム審査員 (CEAR)  
 ・技術士 (環境部門)  
 ・環境カウンセラー (事業者部門)

## JAMSTEC ECO-REPORT 2013 によせて 第三者意見

2013年9月

むつ市 総務政策部

企画調整課 課長 光野 義厚 氏



むつ市には、原子力船「むつ」が任務を終え、新たに生まれ変わった海洋地球研究船「みらい」の母港、「みらい」の管理や研究活動を展開するむつ研究所があります。むつ研究所では、特集記事でも紹介されているように北太平洋時系列観測研究を始め地球規模の環境変動の解明・予測など国際的に重要な研究の一翼を担っており、海洋科学研究拠点地域の形成を目指している当市にとりましても心強い存在です。

環境報告書の主題である環境に配慮する取組や環境パフォーマンスにおいては、環境に係わる貴機構独自の基本方針、指針等に基づき環境マネジメントシステムの運用を確立されていることは大いに評価できます。また、掲載記事は丁寧な説明に加え、見やすい図表や絵などを随所に配置しており、環境を意識した貴機構の真剣な取組みをうかがい知ることができます。特に電気使用量や燃料油使用量などの主要なパフォーマンスデータの推移では、年度別のデータとともに詳しい解説が加えられ、読者にとっても容易に理解できるものとなっています。ただ、各拠点の環境パフォーマンスデータについては、図表に関してできる限り詳細なコメントも加えればさらに充実したものとなると感じました。

また、JAMSTEC・TRIVIAでは、横須賀本部の知られざる一面が紹介され、特に夏島、對馬丸と御製の歌碑については歴史的にも貴重で、後世に永く伝えていくべきものと思います。

環境コミュニケーションの記事にある「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」は、当市をはじめ全国の多くの小学生が応募しており、毎年、発想豊かな作品が私たちの目を楽しませてくれます。このコンテストとともに、様々な各種イベントを通じ、子どもたちの海洋への夢を育み、自らが関心を高めていき、将来はひとりでも多くの子どもが海洋に係わる研究、産業分野で活躍することを願っております。

近年の異常気象、予想される大地震などの自然災害に対する防災意識が高まる中で、当市においても災害に強いまちづくりを主要施策に掲げています。貴機構の地球環境変動研究や地球内部ダイナミクス研究等を重ねることによって、地球温暖化要因や地殻変動の解明、将来予測の構築が叶えば、災害に対する備えなど私たちの生活に直結する問題解決に貢献することでしょうし、また、海底資源研究開発は、我が国のエネルギー資源や鉱物資源の安定供給、産業や経済活動の活性化につながることから、研究開発事業がさらに推進されることを期待しています。